



滋慶学園グループ総長 浮舟邦彦さん

神武東征を題材にした建国神話を、オーケストラと声楽で表現する交声曲「海道東征」（北原白秋作詩、信時潔作曲）のコンサートが10月3日、ザ・シンフォニーホール（大阪市北区）で開かれる。皇紀2600年の奉祝曲として昭和15年に作られた同曲が昨年、

大阪では戦後初めて再演されると、ザ・シンフォニーホールは大きな感動に包まれ、聴衆からは再演を望む声が続いた。ホールを運営する滋慶学園グループ総長の浮舟邦彦さんもその一人。「あの感動をもう一度味わいたい」と秋の公演に期待を寄せる。

日本人の心 揺さぶる感動

昨年秋にザ・シンフォニーホールで大阪フィルハーモニー交響楽団による近衛秀房編曲のベートーヴェン交響曲第5番「運命」に続いて、信時潔作曲、北原白秋作詩の交声曲「海道東征」を生で聴いて、自分でも抑えられない感動が湧き上がってきたことを昨日のうちに覚えています。経済界の方々も派山お見えでしたが、視力を失いつつあった北原白秋が死の直前に書き上げたという、「やまこ」とは、がプロジェクトで半ル正面に映し出されることから見受けられ、とても印象的でした。日本人としてのアイデンティティを共感出来た一瞬だったように思います。私は縁あって20年ほど前から東京フィルハーモニー交響楽団の理事をさせていただいていますが、生まれも仕事を始めたのも大阪ですので、阪神タイガースも含めて大阪には人一倍思い入れがあります。要請を受けて朝日放送からシンフォニーホールを引き継いだのも、ジャンルは異なるものの音楽系の学校をやっていることもありましたが、大阪から音楽文化の殿堂を消してはいけないという思いからでした。そのホールで、戦後70年の産経新聞社の記念事業として、山田耕作と並大坂が生んだ作曲家、信時潔が作った交声曲「海道東征」が上演されたことは、記念すべきことでした。『離れワイエを新装したり、プロジェクト』のシンフォニーホールを導き入ら

昨年秋にザ・シンフォニーホールで大阪フィルハーモニー交響楽団による近衛秀房編曲のベートーヴェン交響曲第5番「運命」に続いて、信時潔作曲、北原白秋作詩の交声曲「海道東征」を生で聴いて、自分でも抑えられない感動が湧き上がってきたことを昨日のうちに覚えています。経済界の方々も派山お見えでしたが、視力を失いつつあった北原白秋が死の直前に書き上げたという、「やまこ」とは、がプロジェクトで半ル正面に映し出されることから見受けられ、とても印象的でした。日本人としてのアイデンティティを共感出来た一瞬だったように思います。私は縁あって20年ほど前から東京フィルハーモニー交響楽団の理事をさせていただいていますが、生まれも仕事を始めたのも大阪ですので、阪神タイガースも含めて大阪には人一倍思い入れがあります。要請を受けて朝日放送からシンフォニーホールを引き継いだのも、ジャンルは異なるものの音楽系の学校をやっていることもありましたが、大阪から音楽文化の殿堂を消してはいけないという思いからでした。そのホールで、戦後70年の産経新聞社の記念事業として、山田耕作と並大坂が生んだ作曲家、信時潔が作った交声曲「海道東征」が上演されたことは、記念すべきことでした。『離れワイエを新装したり、プロジェクト』のシンフォニーホールを導き入ら

ことも、少しはお役に立たなかったかと思っています。滋慶学園では、「実学教育」「人間教育」とともに「国際教育」に力を入れています。専門職は世界を舞台に活躍できるように、音楽やデザイン系は外国人、義肢装具士や歯科技工士、臨工や技工士など医療系の卒業生も大勢、海外で働いています。今は奈良に住んでいることもあって、昨年は古事記を勉強し直したのですが、これになかなか面白かったです。ですから学生さんにも母国の歴史や物語に興味を持って欲しいですね。今秋、あの感動がまた昇りかえるのかと思うと、今から楽しみです。大阪フィルと組む気鋭の大井副史さんの指揮にも期待していますが、今年もソプラノを歌う幸田浩平さんは大阪出身ですし、ソプラノになりました。それに大阪音楽大学のバリエットの田中勉さんも目指しています。そして北原白秋の何にも代え難い「やまこ」とは、信時潔の遺出作曲に乗り、200人の舞台と客席が渾然一体となる幸福の時を味わいたいと思っています。(敬)



昨年行われた「海道東征」のコンサートでは壮大な演奏が響き渡った。＝大阪市北区のザ・シンフォニーホール（恵守乾撮影）



10月3日、大阪ザ・シンフォニーホール

格調高き詩と荘重な音楽

全八章からなる交声曲「海道東征」。詩人、北原白秋が綴った格調高い言葉に、「海ゆかば」で知られる作曲家、信時潔が荘重な音楽を与えた大作だ。戦前、戦中は各地で盛んに演奏されたが、誕生した経緯もあって戦

後は演奏機会が激減。そんな中、戦後70年の節目の年だった昨年11月、ザ・シンフォニーホールで行われた演奏は大阪では戦後初めての再演という歴史的な機会となり、ホールは大きな感動に包まれた。曲は冒頭、雅楽の響きがオーケストラで荘重に表現される。そして「神坐しき、蒼空と共に高く、み身坐しき、皇祖」と朗々と歌って、建国神話の物語の始まりを告げた。続く第二章「天和恩無」では、美しい国王を表現するような優美な旋律が歌われ、第四章「御船通」では大海原を渡る船団の雄たけびとした航路を民謡の牧歌的な旋律で引用しながら表現。そして最終の第八章「天葉弘弘」で、天皇の威光と未来に続く繁栄が重々しくも華やかに奏でられると、ホールを埋めた聴衆は、日本人のアイデンティティに訴えかけてくる響きに熱狂していた。今年の演奏は、昨年同様、日本を代表するオーケストラの大阪フィルハーモニー交響楽団が担当。若手指揮者として注目の大井副史さんがタクトを執る。ソリストには、日本を代表するソプラノの幸田浩平さん、豊かな表現力に定評のあるバリエットの田中勉さんらが名を連ねている。

交声曲 海道東征

コンサートのチケットは各プレイガイドで発売中です。所定枚数が売り切れ次第終了となります。

【開催日時】10月3日(月)午後6時半開演(午後5時半開場)

【演目】スメタナ「わが祖国」より「モルタウ」▷大栗裕「管弦楽のための『神話』一天の岩屋戸の物語による」▷交声曲「海道東征」

【券種と料金】S席＝7000円、

チケット発売中

A席＝6000円

【プレイガイド】ザ・シンフォニーチケットセンター(☎06・6453・2333、午前10時～午後6時、火曜休み)▷大阪フィル・チケットセンター(☎06・6656・4890、平日午前10時～午後6時、土曜午前10時～午後1時、日祝休み)▷チケットぴあ(☎0570・02・9999、Pコード298-492)ゼンインレプラン、サークルK・サン

クスでも取り扱い)▷ローソクチケット(☎0570・084・005、Lコード54306)。それぞれチケット料金に加え、手数料が必要。【問い合わせ】産経新聞社事業本部(☎06・6633・9254、平日のみ)

主催 産経新聞社
共催 大阪フィルハーモニー協会
協賛 滋慶学園グループ、フローラ